



架け橋

第3号

(令和3年4月30日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

目・耳・心でコミュニケーションを

校長 芳崎 正道

風薫る五月。「目には青葉 山木トトギス 初鯉(はつがつお)」の句を私たちに思い出させてくれるほど、春から初夏にかけてさわやかさが五感で伝わる、一年のなかでも、たいへん清々しい季節になりました。

三橋中学校に着任してから、約一ヶ月になります。本校生徒のすばらしさを以下に紹介いたします。(全校集会や保護者会でお伝えしたことです。)

- 1『あいさつ』 どの子も、進んで、中には笑顔で、あいさつをしてくれます。
- 2『無言清掃』 黙々と、一生懸命清掃に取り組みます。そのおかげで、トイレを始め、教室・廊下・校舎の隅々まできれいです。
- 3『話を聴く姿勢』 誰に言われるでもなく、話をする人の方に、自然と体を向け、顔を上げて集中して聴いています。その間、誰一人として私語をしたり、後ろを向いたりする人はいません。
- 4『下駄箱』 かかとをつぶしている生徒が一人もなく、また、靴もきれいにそろえておいてあります。当たり前のことですが、とても安心しました。



キンセンカ(体育館前)

素晴らしい生徒たち、そして素晴らしい学校に着任させていただいた、という印象です。これまでの先生方の御指導、地域・保護者の方の御協力・御支援と、何より、生徒の皆さんのこれまでの心がけ・姿勢のおかげですね。

そのような本校の校長を引き継いだ者として、その責任の大きさ・重さをひしひしと感じています。三橋中学校のすばらしさを変えることなく、維持・向上していく責任。改めて身の引き締まる思いです。

さて、新型コロナウイルス感染症防止のため、マスク着用での学校生活が続いています。顔を合わせて話をしても、マスクのため、表情があまりよく読み取れなかったり、マスク越しのためか、会話も、聞き取りにくかったりします。

校内を歩いていると、「目を見て いつも笑顔で 自分から = 挨拶名人」や「心(掃除が出发点)」という掲示が目に入ります。それらを見て、また、本校生徒の素晴らしい様子を見ていて、私が教員に転職する前、出先の外回り中に上司から教わった言葉が、頭に浮かびます。

「芳崎君、相手の話は、どうやって聞けばよいと思う？さっきの取引先の態度は、どうだったと思う？」
「はい、先方からのお願い事で当方がおうかがいしたわけですが、あまり関心がなかったような印象を受けました。どことなく生返事ばかりと感じました。」
「うん、そのとおりだ。ほとんど目も合わなかった。ああいう対応は社会人として、どうだろうか。
反面教師にしないとイケない。いいかい、人の話は、目・耳・心で聴くことが大切なのだよ。」

新型コロナウイルス感染症防止体制が今後もしばらく続きそうな状況のもと、「ソーシャルディスタンス」として、人と距離をとらなければならないことばかりに人々が気をとられ、人と人とのつながりが希薄となったり、人との「心の距離」までも遠のいてしまったりしてはいけません。

「人の話は、目・耳・心で聴く」。

ここまで、学級担任、部活動顧問、学年主任、教頭、小学校長等、歴任してきました。その際、子どもたちに必ず伝えてきた言葉の中で、座右の銘・処世訓として、自らにも言い聞かせてきたのがこの言葉でした。コロナ禍の今こそ、コミュニケーションを図っていく際に、とても大切な心がけと思われまます。

清々しいあいさつをし、集会などで自然に話し手に体を向けてくれる三橋中学校の子どもたちなら、お互いに「目・耳・心で聴く」子どもに育てていってくれるにちがいないと信じ、そして願っています。